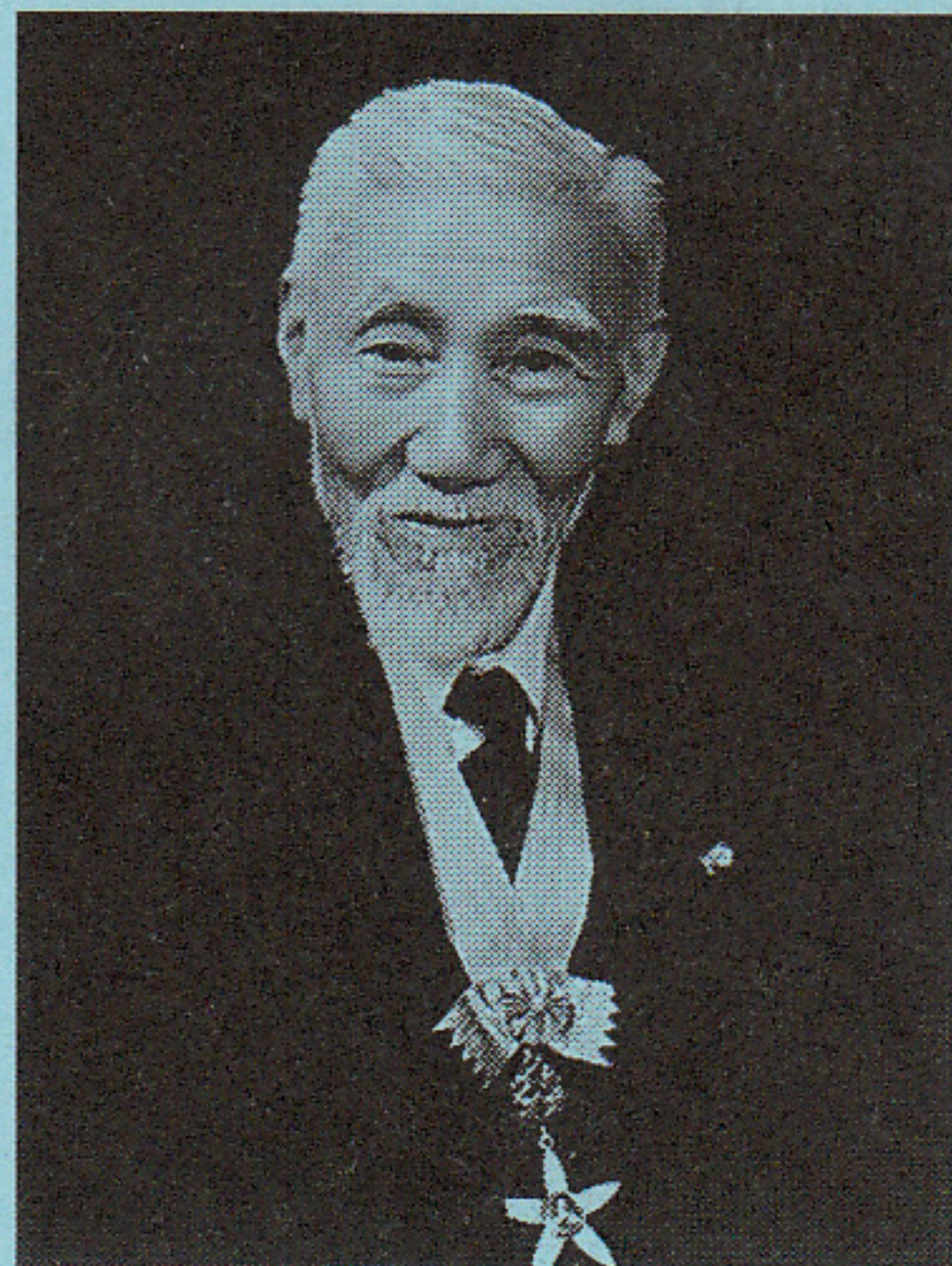
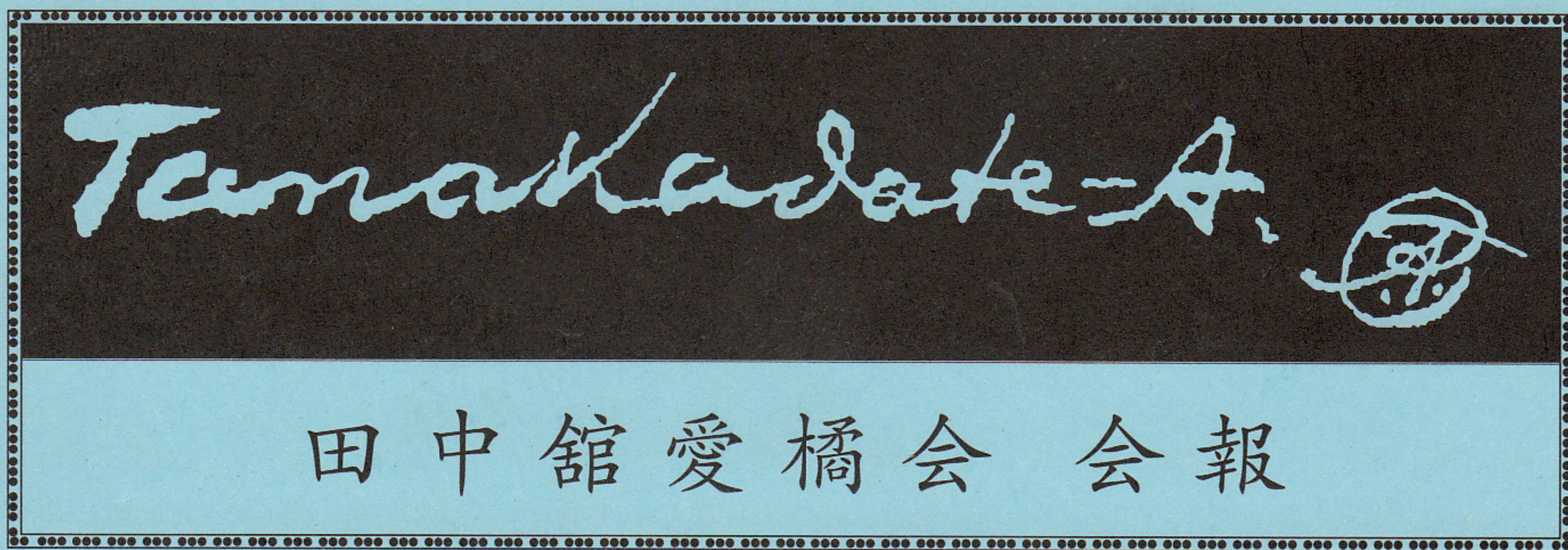




(シビックセンター10周年特集号)



※お断り——9月1日発行になっておりますが、
9月の行事を掲載したいので1ヶ月遅らせました。

平成21年度(第24回)

5月21日(木)

総会関連行事

終わる

10:00~10:30 お墓参り(57年祭)

10:40~11:50 定期総会

12:00~13:30 懇談会

今回も例年のように晴天に恵まれ、第24回の総会関連行事が祖霊社において実地されました。今年も例によって、到着順にお墓参りをし、博士の遺徳を改めて噛み締めて頂きました。

お墓参りを終えた後、金田一「歌の集い」の皆さんによる「博士の和歌」合唱がオープニングとして歌われました。

○冬の夜の 更くるも知らで ローマ字の 友のまどいは 心楽しも

※大正14年作、ローマ字の話を頼まれれば博士はどんな所でも昼夜を分かたず気軽に
出かけられたという。大抵の場合時間が足りなくなり、次回を約束しながら別れを惜
しんだ・・・と著書「葛の根」に書かれている。

○星一つ 見つけし夜半の 喜びは 月にも勝る 春のおぼろよ

※明治20年作、重い機械器具を背負って山頂、原野へと天体観測に出かけることは幾度と
なく・・・何時間も待ってやっと雲の切れ間から一つの星を見つけた時の何物にも替えがた
い大きな喜びが歌われている。

○心有る 友の宴(うたげ)の 夜神楽に 飴(こだま)にぎおう 吞香の杜(もり)

※大正15年作、福岡で博士の古希の祝いをしてもらったお礼の手紙にある。手紙はロー
マ字(筆写体)の流麗なペン字でかかれてある。

稲荷神社境内のローマ字歌碑に刻まれてあるのもこの歌である。(ペン字を拡大したもの)

続いて定期総会に移行し、菅原孝平議長のもとに議案も殆ど原案通り可決され、スムーズに
終わることができました。本年もまた、ご遺族の松浦明氏から熱のこもったスピーチを頂き、
有意義だったと思っております。

二戸市シビックセンター “オープン10周年” を迎える

シビックセンター（田中館愛橘記念科学館も）は、平成11年9月18日（博士の誕生日）にオープンしましたので、今年でちょうど10周年となりました。

センターでは、その記念事業として、オープン・セレモニー「クス玉割り」（玄関）のほかに初めての試みとして「ローマ字書道コンクール」（作品は市民ホール展示）と「特別展」（カルチャーセンター展示）を企画実施しました（本会も全面的協力）

◎クス玉割り

9月18日午前9時、小原二戸市長及びシビックセンター運営協議会長の挨拶の後、玄関に吊された金ピカのクス玉が市長及び関係者の手で見事に割られ、拍手で10周年を祝いました。

◎「ローマ字書道」コンクール

市内の小・中・高の児童生徒を対象に夏休みの課題としての作品を募集（一応手本は提示締め切りは8月28日）して実施しました。小学生は181点、中学生は46点、高校生（1校のみ）は15点の応募がありました。

審査には、二戸市教育長 阿部 実、田中館愛橘会長 丹野 幸男、同事務局長 佐藤 綾夫の三氏があたり、慎重に審査の上、入賞者は次のように決定致しました。

- 小学校の部 （金賞） 奥 楓 花（御返地 6）
 （銀賞） 漆 原 優 衣（二戸西 5）
 （銅賞） 川 上 紗 希（石切所 6）
 （入選） 石 輪 陽 子（二戸西 5）
 山 館 美 紅（二戸西 5）
 田 口 かずみ（御返地 6）
 丹 野 隆 幸（福 岡 6）
 田 中 香菜子（福 岡 6）

（審査員特別賞——5名）

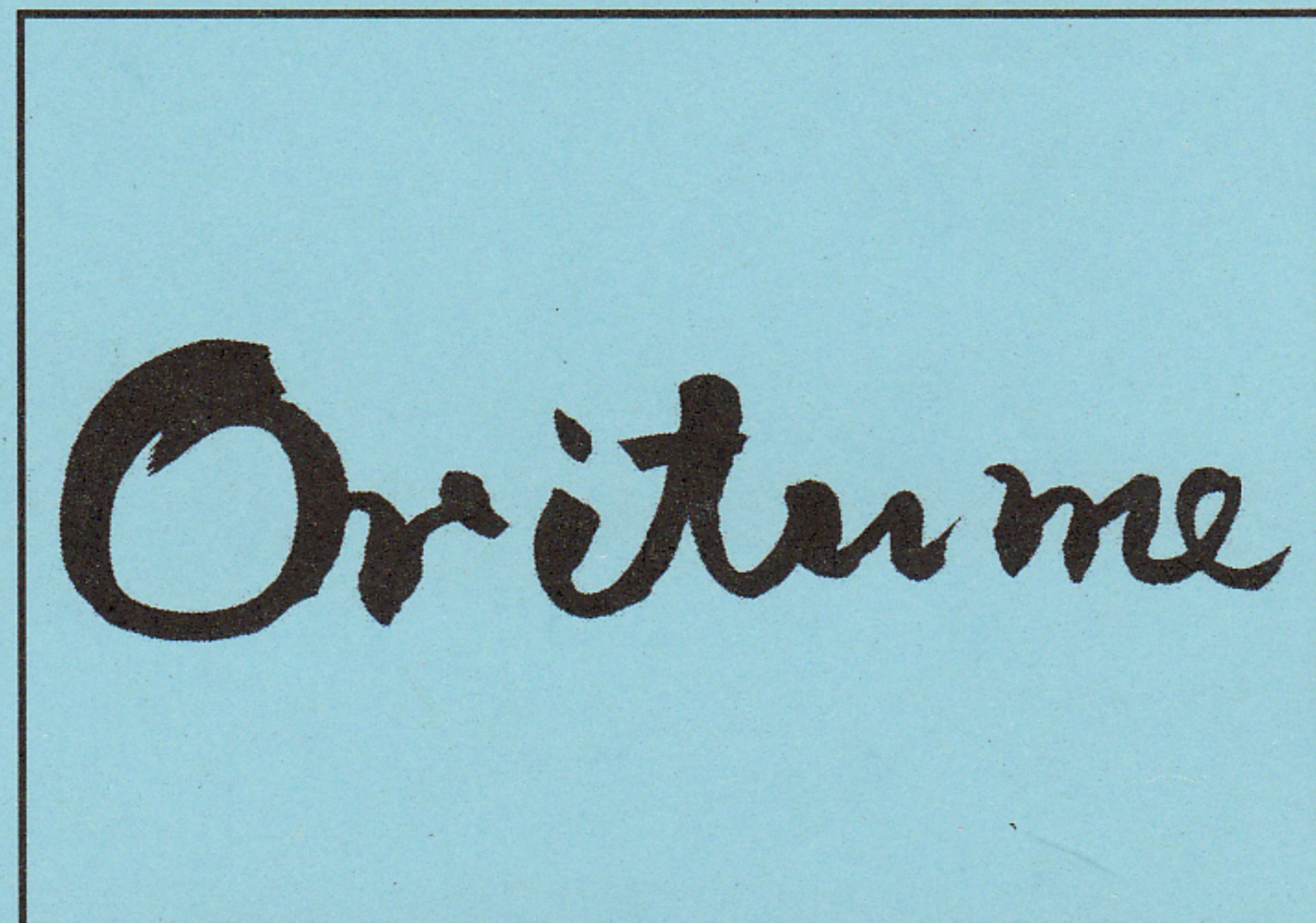
高 沢 彩 乃（石切所 6）

大 西 菜々子（中 央 6）

立 浪 咲 良（中 央 6）

矢 野 広 大（福 岡 6）

小保内 花 奈（福 岡 6）



—小学校の部 金賞 奥 楓 花さんの作品—



—中学校の部 金賞 下斗米 咲さんの作品—

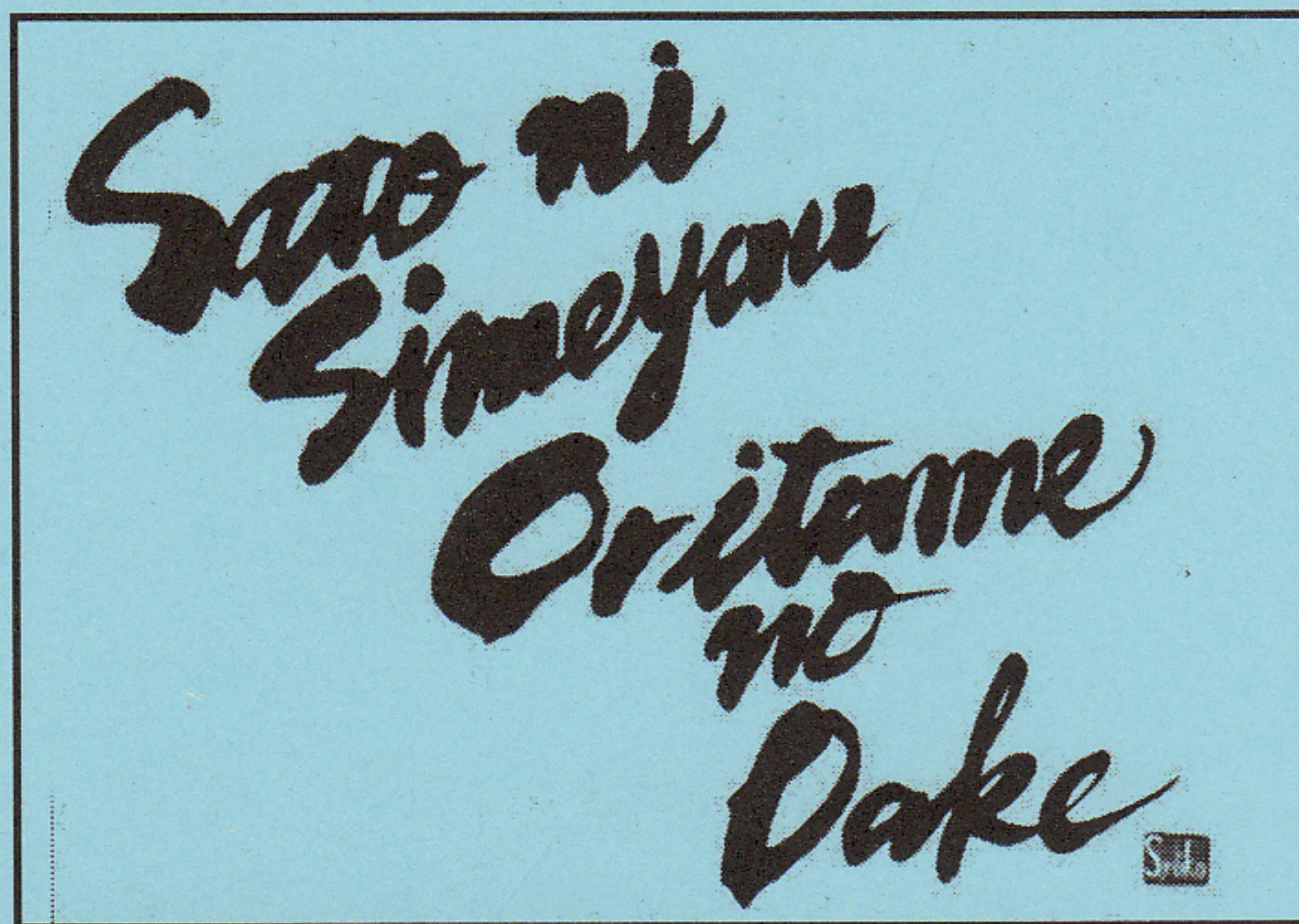
○中学校の部

- （金賞） 下斗米 咲（福 岡 3）
 （銀賞） 田 口 夏 美（御返地 3）
 （銅賞） 関 根 直 志（仁左平 3）
 （入選） 佐 藤 ともか（福 岡 1）

塚根 沙 懼 (仁左平 2) 四戸岸 悠 磨 (御返地 1)
 千葉 あや乃 (御返地 3) 四戸岸 茜 音 (御返地 3)
 (審査員特別賞——5名) 松 倉 里 奈 (福岡 3) 三 上 莉 央 (御返地 3)
 四戸岸 拓 也 (御返地 3) 千葉 隆 太 (御返地 3)

※中学校12名の入賞者中、御返地中学校の7名入賞は特筆すべきこと。

○高等学校の部 (金賞) 古 館 笙 子 (福岡 2)
 (銀賞) 高 村 彩 芽 (福岡 1)
 (銅賞) 小笠原 宏 美 (福岡 2)
 (入選) 奥 沢 香 穂 (福岡 2)
 田 口 綾 乃 (福岡 2)
 三 浦 佑 太 (福岡 1)
 上 村 裕 菜 (福岡 1)
 吉 田 真利奈 (福岡 2)
 (審査員特別賞) 無し



—高等学校の部 金賞 古館 笙子さんの作品—

「ローマ字書道」という最初の試み（恐らく本邦初公開——というところじゃないでしょうか？）としては応募者が結構あったものと思われます。ただ、学校数はチョッと寂しい気が致しました。

筆でローマ字を書くのに大分手こずったと思われますが、良く練習をしたとみえる作品が多く有りました。小・中学生は、手本として提供した博士の墨痕（博士の直筆のコピー）を真似るような（これはこれで良いと思います）作品が殆どでしたが、高校生はさすがに、手本を一つの題材として受け止め、書体や紙面のバランスなど全く創造的に書いているのには一驚致しました。これは、これで大変喜ばしいことと思います。

◎特別展

○「ローマ字書道」コンクール作品展 9月18日（金）～1ヶ月間（市民ホール）

すでに触れましたように、最初のこととは言え中々の力作が多く、審査員も大変だったようです。

全部展示したかったようですが、数が多く大変なので入賞者のみになりました。市民の皆様も多数いらして子供たちの作品をご覧頂ければ——と願っております。

展示作品は、

※小学校——13点 ※中学校——12点 ※高等学校——8点

○田中館愛橘資料展 9月18日（金）～23日（水）（カルチャーセンター）

展示品の中には、平常なかなか見ることのできない文化勲章、勳一等旭日大授章などがあり、十分に芽を楽しませてくれました。その他、博士の直筆になる種々の掛け軸や遺品が展示され、参観者も、ありし日の博士の勇姿を懐かしく偲ぶことが出来たものと思われます。

その後の歩み

- 平成21年 2月 4日 第46回田中館博士記念小中学校科学研究発表会 (予定)
- 2月 8日 小保内道さん宅で思い出話を収録
- 4月 9日 平成20年度監査会
- 4月25日 役員会 (総会提出議案審議 他) 於. シビックセンター
- 5月21日 第24回総会関連行事実施
- お墓参り (57年祭)
- 定期総会
- 懇談会
- 6月 4日 シビックセンター運営協議会
- 6月23日 第1回資料調査委員会 (於. シビックセンター)
- 8月 3日 博士に関わる資料 (展示会用も考慮) を見せて頂く (小保内道彦氏宅)
- 8月23日 故 枋内 和男氏の御霊前に弔文と盛花を捧げる
- 8月28日 ※「ローマ字書道コンクール」打合せ会 (所長室)
- 9月 1日 ※「ローマ字書道コンクール」審査会 (ホール)
- 9月 7日 ※10周年「特別展」打合せ (所長室)
- 9月18日 ※シビックセンター10周年記念事業実施
- クス玉割り (57年祭)
- 「ローマ字書道コンクール」作品展 (1ヶ月間)
- 特別展——23日迄 ※本会も全面的に協力
- 9月30日 会報45号350部作成し関係方面に頒布す

~~~~~あ と が き~~~~~

- ☆…ツラツラおもんみるに集中豪雨——突風・竜巻…カテテ加えて8月に入ってもツユがあげないなどなど…なんだか、「天候の神」がエラク怒ったような異常気象が続いておりますが、会員の皆様には変わり無くお過ごしのことと拝察します。異常も連続すると平常に転化する? そのうちドカンと大きな天変地異が——と思わずにはおられません。(9/10)
- ☆…本誌でお知らせのように、早いもんです田中館愛橘記念科学館 (シビックセンター) が開館してもう10周年となりました。なんとなく、地球も私達も猛烈なスピードでトシをとっているんだなと感ずるのは私だけでしょうか?…ナラいいんですが——。
- ☆…訃報です。小原豊治氏 (100才) 菅文次郎氏 (88才) 心からご冥福をお祈り申し上げます。

《会報のタイトルについて》

- *写真は昭和19年4月、文化勲章受章の時のものです。
- *氏名、サインとも博士の自筆であり、サインは絵やローマ字の書き物をなされた時に主として記しており、両方とも印鑑にしているのも有ります。

《会報の発行について》

- *年2回発行
- *編集者 佐藤綾夫 (事務局長)

《発行所》 田中館愛橘会

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡55
二戸市シビックセンター内 ☎0195-25-5411
F0195-23-3548
(振替口座) 02350-8-18841

《印刷所》 沢倉印刷株式会社

〒028-6101 岩手県二戸市福岡字城ノ外38 ☎0195-23-3107